

# 四半期報告書

(第18期第1四半期)

自 平成25年3月1日

至 平成25年5月31日

株式会社イオンファンタジー

千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1

表紙

## 第一部 企業情報

## 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2

## 第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

## 第3 提出会社の状況

## 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	3
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) ライツプランの内容	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(6) 大株主の状況	5
(7) 議決権の状況	5

2 役員の状況	5
---------	---

## 第4 経理の状況

## 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10

2 その他	13
-------	----

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年7月9日
【四半期会計期間】	第18期第1四半期（自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日）
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 片岡 尚
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043（212）6203（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【最寄りの連絡場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043（212）6203（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第17期 第1四半期 連結累計期間	第18期 第1四半期 連結累計期間	第17期
会計期間	自平成24年2月21日 至平成24年5月20日	自平成25年3月1日 至平成25年5月31日	自平成24年2月21日 至平成25年2月28日
売上高（千円）	10,707,980	11,398,877	44,868,284
経常利益（千円）	599,921	422,091	3,490,870
四半期（当期）純利益（千円）	269,347	148,755	1,535,908
四半期包括利益又は包括利益（千円）	259,508	364,742	1,851,823
純資産額（千円）	18,396,031	19,832,554	19,988,137
総資産額（千円）	24,619,559	26,191,407	26,684,437
1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	14.85	8.20	84.71
潜在株式調整後1株当たり 四半期（当期）純利益金額（円）	14.81	8.18	84.46
自己資本比率（％）	73.6	74.3	73.7

（注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

## 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間は、当社のアイデンティティの確立とお客さまへのブランドメッセージの統合を目的に、国内外の店舗の屋号を‘モーリーファンタジー’に一本化する取り組みを進めるとともに、さらなる成長に向けた新規出店や既存店活性化等、通期での業績拡大に向けた積極策を進めてまいりました。

当第1四半期連結累計期間における業績につきましては、売上高113億98百万円（前年同期比106.5%）、営業利益3億77百万円（同62.6%）、経常利益4億22百万円（同70.4%）、四半期純利益1億48百万円（同55.2%）となりました。

#### (国内事業)

国内事業は、屋号一本化の一環として、店頭サインの変更のみならず、新たに開発した当社オリジナル遊具や新規メダルゲーム、売れ筋カードゲーム等の拡充を中心とした既存店の活性化を進めました。また、孫同伴シニアを対象としたイクジー会員は、5月までに3万1千人が入会いたしました。これらの施策による既存店の底上げにより既存店売上は前年同期比2.8%増と総じて堅調に推移しました。

また、新規に春日部店、つくば店、新潟青山店、東久留米店、大阪ドームシティ店と合計5店舗を開店させるとともに、26店舗の既存店改装を行いました。

以上のような国内事業の積極展開により、当第1四半期連結累計期間における国内事業の売上高は109億44百万円（前年同期比104.5%）と計画を上回ることができました。売上の内訳では、カードゲームが大幅な伸びとなり商品売上が28億94百万円（同124.9%）となりましたが、遊戯機械売上が80億13百万円（同98.7%）となりました。これにより、粗利益が計画を下回るとともに、新規出店の増加等にもなう営業原価の上積み为重なりセグメント利益は4億65百万円（同71.9%）となりました。

#### (海外事業)

海外事業については、中国、マレーシア、タイそれぞれの子会社は順調な業績で推移しております。中でも中国は既存店売上が前年同期比122.8%と極めて好調に推移しました。

当第1四半期末のそれぞれの直営店舗数は、中国11店舗、マレーシア28店舗、タイ2店舗となります。当第1四半期連結累計期間における海外事業の業績は、売上高4億54百万円（前年同期比191.8%）、セグメント損失87百万円（前年実績はセグメント損失43百万円）と計画に沿った推移となりました。

#### 財政状態の分析

##### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、111億50百万円となり、前連結会計年度末に比べ22億49百万円減少いたしました。主な内訳は売上預け金（5億42百万円）及びたな卸資産（5億74百万円）の増加、新店及び活性化投資を実施したことによる資金需要の増加に伴う関係会社寄託金の減少（30億円）であります。

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、150億40百万円となり、前連結会計年度末に比べ17億56百万円増加いたしました。主な内訳は、新店及び活性化投資に伴う遊戯機械の増加（15億26百万円）であります。

この結果、総資産は261億91百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億93百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、60億75百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億57百万円減少いたしました。主な内訳は、新店及び活性化投資に伴う設備関係支払手形の増加(12億20百万円)、法人税等の支払に伴う未払法人税等(12億66百万円)及び買掛金(3億4百万円)の減少であります。

この結果、負債合計は63億58百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億37百万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、198億32百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億55百万円減少いたしました。主な内訳は、四半期純利益(1億48百万円)及び為替換算調整勘定(1億82百万円)の増加、剰余金の配当による減少(5億44百万円)であります。

経営成績の分析

(売上高)

売上高は113億98百万円となりました。その部門別内訳は、遊戯機械売上高84億61百万円、商品売上高28億94百万円、委託売上高41百万円、その他2百万円であります。新店及び活性化店舗の売上の増加に加え、カードゲーム機の売上が伸長したこと等により、前年同期より6億90百万円増加いたしました。

(売上原価)

売上原価は102億78百万円となり、前年同期より8億71百万円増加いたしました。新店及び活性化店舗への設備投資に伴う減価償却費の増加及びカードゲーム機の売上増加に伴う商品仕入原価の増加によるものであります。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は7億42百万円となり、前年同期より45百万円増加いたしました。

(営業外収益及び営業外費用)

営業外収益は53百万円となり、前年同期より37百万円増加いたしました。営業外費用は8百万円となり、前年同期より10百万円減少いたしました。主な増減は為替差損益であります。

(特別損失)

特別損失は44百万円となりました。主な内訳は閉店の意思決定に伴う閉店損失引当金及び減損損失の計上によるものであります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年7月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,175,688	18,175,688	株式会社東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	18,175,688	18,175,688	—	—

## (2) 【新株予約権等の状況】

当第1四半期会計期間において発行した新株予約権は、次のとおりであります。

決議年月日	平成25年4月16日
新株予約権の数(個)	158
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	15,800 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額 (円)	1
新株予約権の行使期間	平成25年6月10日～ 平成40年6月9日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,757 資本組入額 879 (注) 2
新株予約権の行使の条件	① 新株予約権を割り当てられた者は、権利行使時においても当社の取締役または監査役の地位にあることを要する。ただし、当社の取締役および監査役を退任した場合であっても、退任日から5年以内に限って権利行使ができるものとする。 ② 新株予約権については、その数の全数につき一括して行使することとし、これを分割して行使することはできないものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡し、またはこれを担保に供することは原則としてできない。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数＝調整前株式数×分割（または併合）の比率

当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承認される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、その他これらの場合に準じ株式数の調整を必要とする場合、当社は必要と認める株式数の調整を行う。

2. 新株予約権の行使による株式の発行については、自己株式を充当する場合には、資本組入は行わないものとする。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減 額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年3月1日～ 平成25年5月31日	—	18,175,688	—	1,747,139	—	1,650,139

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年2月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成25年2月28日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 41,700	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 18,042,900	180,429	—
単元未満株式	普通株式 91,088	—	—
発行済株式総数	18,175,688	—	—
総株主の議決権	—	180,429	—

② 【自己株式等】

平成25年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所 有株式数 (株)	他人名義所 有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合 (%)
株式会社イオンフ ァンタジー	千葉県美浜区中瀬 一丁目5番地1	41,700	—	41,700	0.23
計	—	41,700	—	41,700	0.23

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当第1四半期累計期間において、役員の変動はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,250,053	5,055,193
売上預け金	※1 150,090	※1 692,706
たな卸資産	871,214	1,445,396
関係会社寄託金	※2 6,000,000	※2 3,000,000
その他	1,128,572	957,165
流動資産合計	13,399,930	11,150,462
固定資産		
有形固定資産		
遊戯機械(純額)	7,061,505	8,587,505
その他(純額)	2,261,356	2,522,373
有形固定資産合計	9,322,862	11,109,878
無形固定資産		
のれん	1,087,499	1,057,990
その他	144,130	92,890
無形固定資産合計	1,231,629	1,150,880
投資その他の資産		
敷金及び差入保証金	2,030,212	2,057,653
その他	699,802	722,531
投資その他の資産合計	2,730,015	2,780,185
固定資産合計	13,284,507	15,040,945
資産合計	26,684,437	26,191,407
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,295,706	990,985
未払費用	787,845	1,058,659
未払法人税等	1,404,100	137,876
賞与引当金	203,764	361,429
役員業績報酬引当金	50,996	13,078
設備関係支払手形	1,559,468	2,779,689
閉店損失引当金	1,025	17,672
その他	1,130,281	715,868
流動負債合計	6,433,190	6,075,260
固定負債		
退職給付引当金	19,598	23,048
資産除去債務	195,219	197,391
その他	48,291	63,153
固定負債合計	263,109	283,592
負債合計	6,696,300	6,358,853

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,747,139	1,747,139
資本剰余金	1,714,979	1,711,086
利益剰余金	16,057,172	15,661,910
自己株式	△66,815	△59,352
株主資本合計	19,452,476	19,060,783
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,491	15,100
為替換算調整勘定	212,418	394,546
その他の包括利益累計額合計	221,909	409,647
新株予約権	43,343	67,150
少数株主持分	270,407	294,972
純資産合計	19,988,137	19,832,554
負債純資産合計	26,684,437	26,191,407

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年2月21日 至平成24年5月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
売上高	10,707,980	11,398,877
売上原価	9,406,991	10,278,111
売上総利益	1,300,989	1,120,765
販売費及び一般管理費	697,029	742,862
営業利益	603,959	377,903
営業外収益		
受取利息	5,585	3,477
為替差益	—	43,352
機械仕入割戻	3,478	1,946
その他	6,426	4,372
営業外収益合計	15,490	53,148
営業外費用		
為替差損	13,191	—
固定資産売却損	4,442	8,329
その他	1,894	631
営業外費用合計	19,528	8,960
経常利益	599,921	422,091
特別損失		
閉店損失引当金繰入額	—	17,252
減損損失	—	27,530
特別損失合計	—	44,783
税金等調整前四半期純利益	599,921	377,308
法人税、住民税及び事業税	372,940	81,033
法人税等調整額	△41,586	146,496
法人税等合計	331,354	227,529
少数株主損益調整前四半期純利益	268,567	149,779
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△780	1,023
四半期純利益	269,347	148,755

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年2月21日 至平成24年5月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	268,567	149,779
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	5,609
為替換算調整勘定	△9,058	209,353
その他の包括利益合計	△9,058	214,963
四半期包括利益	259,508	364,742
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	269,387	336,493
少数株主に係る四半期包括利益	△9,879	28,249

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

- (1) 連結の範囲の重要な変更  
該当事項はありません。
- (2) 持分法適用の範囲の重要な変更  
該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

※1. 売上預け金

ショッピングセンターの店舗賃貸人に預けている売上代金であります。

※2. 関係会社寄託金

余裕資金の有効活用を目的としてイオン株式会社との間で金銭消費寄託契約を締結しており、当該契約による寄託金であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年2月21日 至 平成24年5月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日)
減価償却費	885,114千円	1,080,885千円
のれんの償却額	67,967	70,098

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間（自平成24年2月21日 至平成24年5月20日）

配当金支払額

平成24年4月5日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	580,143千円
② 1株当たり配当額	32円
③ 基準日	平成24年2月20日
④ 効力発生日	平成24年4月24日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間（自平成25年3月1日 至平成25年5月31日）

配当金支払額

平成25年4月16日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	544,017千円
② 1株当たり配当額	30円
③ 基準日	平成25年2月28日
④ 効力発生日	平成25年5月8日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年2月21日至平成24年5月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,470,920	237,060	10,707,980	—	10,707,980
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,002	—	5,002	△5,002	—
計	10,475,922	237,060	10,712,983	△5,002	10,707,980
セグメント利益又は損失(△)	647,034	△43,075	603,959	—	603,959

(注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,944,312	454,564	11,398,877	—	11,398,877
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,563	—	7,563	△7,563	—
計	10,951,876	454,564	11,406,440	△7,563	11,398,877
セグメント利益又は損失(△)	465,018	△87,114	377,903	—	377,903

(注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年2月21日 至平成24年5月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	14円85銭	8円20銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	269,347	148,755
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	269,347	148,755
普通株式の期中平均株式数(株)	18,130,176	18,137,246
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	14円81銭	8円18銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	—	—
(うち支払利息(税額相当額控除後) (千円))	—	—
普通株式増加数(株)	46,694	53,008
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

(剰余金の配当)

平成25年4月16日開催の取締役会において、剰余金の配当につき次のとおり決議いたしました。

(1) 配当金の総額	544百万円
(2) 1株当たりの金額	30円00銭
(3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日	平成25年5月8日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年6月27日

株式会社イオンファンタジー

取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 陸田 雅彦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡辺 雅子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イオンファンタジーの平成25年3月1日から平成26年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イオンファンタジー及び連結子会社の平成25年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年7月9日
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 片岡 尚
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役片岡尚及び常務取締役管理統括兼リスクマネジメント担当新田悟は、当社の第18期第1四半期（自平成25年3月1日 至平成25年5月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。